

地域の真に豊かな明日を築く —新たな国富の形成に向けて—

Real Wealth in regions for future prosperity
— New concept by using the Inclusive Wealth Index —

全国大会実行委員会学会誌編集部会：浅井光輝、貝沼重信、古川全太郎

今回の特集では、土木計画における新しい考え方「新国富論」に着目し、これまでの土木計画で扱われてきた「費用便益分析」との類似点と違いを学びながら、地域に真に豊かな明日を築くためには土木事業者として何ができるのかを再考することを目的としています。

「費用便益分析」とは、国、地方自

治体、民間会社などの組織が事業を行う際、事業者あるいは利用者が得る便益が事業を遂行する上でかかる費用を上回っているかどうかを見るものです。たとえば、わが国の道路事業評価の例をあげると、利用者の主な便益としては走行時間の短縮、走行費用の減少、交通事故の減少の3項目が考えられます。このような直接的な便益のみを考えると、交通需要の多い大都市圏では道路整備が進むでしょう。しかし、今回焦点をあてた「地域」においては不利な指標であることは明白です。このため、他国では便益としては「雇用の創出」など幅広い意味での経済効果を見込む、または「地元の意向」などの間接効果を加味することもあるよう



です。

この編集企画では、現在「新国富論」の普及に向けて鋭意研究・実践を行い最前線でご活躍中の馬奈木俊介氏（九州大学都市研究センター主幹教授）にアドバイスをいただきながら、執筆者の人选、企画内容を検討してきました。

まずは冒頭で、池田真也氏との連名にて「プロジェクト評価の新潮流…新国富による地域の真の豊かさ」というタイトルで新国富論の概要、またその適用の一例として地域活性化への応用の際の基本的な考え方について解説いただきました。次に、栗田啓子氏（東京女子大学現代教養学部教授）には、1800年代にフランスではじまった「費用便益分析」の開発経緯について紹介いただい

たのちに、「公共の利益」の証明としてはじまった同手法の客観性に関する問題点についてご指摘いただきました。以上の解説的な記事を冒頭部に添えることで、その後に出てくる専門用語が理解できるようになっておりますので、初学者の方には冒頭部から読んでいただくことをお勧めします。

それ以降の原稿は、「地域の真に豊かな明日を築く」をテーマとし、特に九州を中心とした地域における新たな取り組みの事例を紹介することで今後の地域活性化のヒントを考える企画となっています。

まずは、麻生泰氏（九州経済連合会会長）からは、地域経済活性化における土木事業の必要性、また今後のポテンシャルについて、土木分野外からの客観的な視点でコメントいただきました。

また米良充典氏（宮崎商工会議所連合会会頭）からは、宮崎県民待望の東九州道の開通（北九州から宮崎・清武南まで）の経緯とその後の発展状況を聞かせていただきました。米良氏はおよそ1年前の2016年10月号にも類似した内容でご執筆いただいていたのですが、今回の企画趣旨には外せない貴重な事例として再登場していただい

ております。前回の記事を併せて読むと米良氏をはじめとした宮崎県のみならずが期待する東九州道への熱い思いがよくわかります。また（株）リバー・ヴィレッジの代表として活躍中の村川友美氏にはこれまでとはちょっと違った視点から地域活性化のヒントについて、ご自身が推進している小水力発電を絡めてご執筆いただきました。タイトルの部分「地域小水力」は、おそらく水力は推力和にかけて、地域の小さな推力も地域活性化には欠かせないとのメッセージが隠れているのではと勝手に推測しています。また、ご自身のエクアドル留学経験からの「真の豊かさとは」との疑問の投げかけも一読の価値があります。

以上の地域経済と地域の豊かさに関する一般的な記事のあとに、実際に「新国富論」を使った事例として、九州をはじめとした地域活性化に関する取り組みを紹介させていただきました。まずは松永千晶氏（九州大学大学院助教）からは「九州大学のキャンパス移転事業の評価」を、水俣市長の西田弘志氏からは「水俣市の潜在的な価値を見直し、持続可能な発展の試み」を、そして福井県の網本敬徳氏からは「幸福度日本」の福井県とさらなる発展の試み」

についてご紹介いただきました。以上はすべて九州大学・馬奈木研究室と共同研究を開始した段階であり、その現状の紹介と今後の期待についてもコメントいただいています。具体的な事例として、他の地域活性化の取り組みの良い参考になるのではないのでしょうか。

最後に編集後記を兼ねて、本特集だけでなく、土木学会全国大会の特別講演、全体討論会を企画担当いただいた塚原健二氏（九州大学大学院附属アジア防災研究センター教授）に「地域の真に豊かな未来を築くための社会資本」というテーマの原稿をご執筆いただきました。以上が今回の企画内容の概要になります。

すべての原稿が出揃い、最初から最後までを並べて原稿を読んでもと初學者でも「新国富論」のエッセンスが理解できた気がします。新国富論はこれまでのみなさんが勉強した「費用便益分析」が目指していた便益評価をより客観的かつ定量的に評価するものであり、特に土木事業が実現すべき「公共の利益」につながる次世代の指標となり得ることが理解できました。みなさんぜひ、最初から最後まで記事を通して読んでみてください。

